

esplanade / a new perspective



FUKUOKA ART MUSEUM

福岡市美術館

esplanade [エスplanade]
JULY 2023 | NO.212



表紙の作品

所蔵品紹介

めぐりあい

狩猟中、思いがけない出会いに驚く山男と微笑むカモシカ。カモシカに表情という人格が与えられたことで、互いの存在を尊重しあうかのような絶妙な距離感も感じられます。

本作品を手掛けたのは畦地梅太郎、愛媛県出身の木版画家です。東京の内閣印刷局に勤める傍ら制作した作品をきっかけにして、畦地は木版画家としての人生を歩み始めます。1940年頃から畦地は山をテーマとして本格的に制作し始めました。また山に関する著書も多数執筆していますが、その関心は大自然の厳しさというよりも、山で育まれる命や、そこに身を

いた人々の営みに向けられています。

1953年に「山男」という名の作品を発表し、それ以降の畦地の作品の大半が「山男」という独自のテーマへ変わっていきました。「山男」は自分だと畦地は述べていることから、カモシカと出会った「山男」の仕草や表情は、畦地自身を投影した姿であると言えるでしょう。ところが、畦地は実際のところ登山中にカモシカに出会ったことはなかったそうです。カモシカに会いたい、という畦地の希望が本作品の中での出会いに繋がったのかもしれない。

※本作はコレクション展「山好きな画家たち」（近現代美術展示室A、8月27日まで開催）に展示しています。

—— 学芸員（近現代美術係）渡抜由季

畦地梅太郎

AZECHI Umetaro
(1902-1999年)

1956年
木版・紙
縦58.5×横40.9cm

esplanade

[エスプラナード]

JULY 2023 | NO.212

contents

03 所蔵品紹介

04 巨大ロボットとはいったい何なのか？

06 知られざる朝鮮王朝絵画の魅力に迫る

08 夏休みこども美術館2023
「うつくsea! すばらsea!」

10 美術館スケジュール（7～9月）

だんだんと日が長くなってきました。1日で使える時間が増えたようで、ちょっと得した気分になります。さて福岡市美術館では7～10月の金・土曜日は、午後8時まで夜間開館いたします。期間中、当館でみなさまを待っているのは、近年新しい発見があった朝鮮王朝の絵画や海にまつわる展示、巨大ロボットアニメの作品など、バリエーション豊か！

涼くなった時間帯に、お散歩がてら大濠公園へいらしてはいかがでしょうか。見慣れた美術館がちょっと違った顔に見えるかもしれません。



宇宙の戦士(1977年) 加藤直之・宮武一貴 ©スタジオぬえ



あの有名巨大ロボットの大きさを体感!? ©創通・サンライズ



地球防衛企業ダイ・ガード(1999年) ©XEBC・フライングドッグ／創通

展覧会情報

日本の巨大ロボット群像

ー巨大ロボットアニメ、そのデザインと映像表現ー

◇会期:9月9日(土)~11月12日(日)

◇会場:2階 特別展示室

◇観覧料:一般1,600円、高大生800円、小中生500円

ひとこと

1 巨大ロボットの「メカニズム」に注目！

主人公のロボットへの「搭乗」、そして「合体」、「変形」は巨大ロボットの、いわば「お約束」。玩具展開を前提としたデザインには工夫が凝らされています。が、そのデザインに隠された「メカニズム」には、それなりの合理性があります。本展では、そうしたメカニズムの魅力を、デザイン画やアニメ劇中の場面などから制作した造作物によってお伝えします。

ひとこと

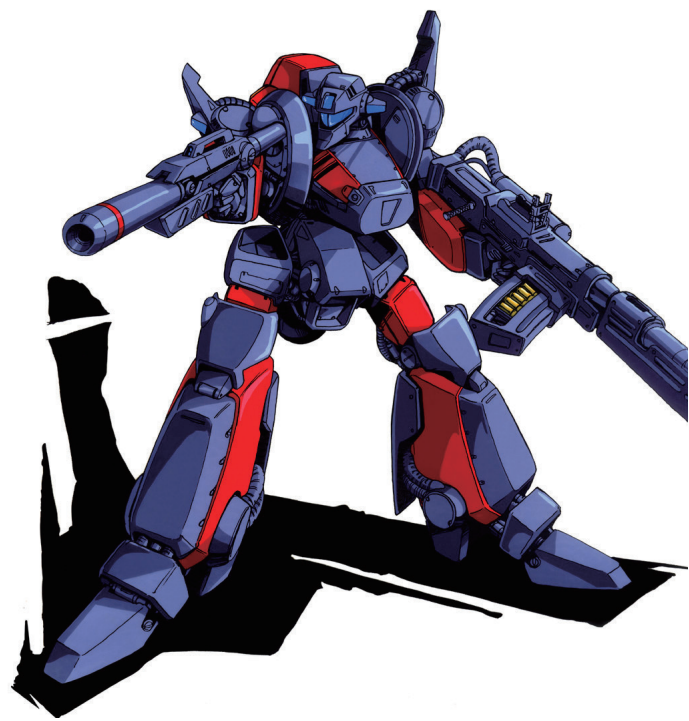
2 気分はパイロット？ ロボットの「大きさ」を体感できる！

巨大ロボットの大きさは、アニメ劇中にいかに表現されてきたか？1980年代になると、巨大なロボットは実用機械レベルに小さくなり、同時にその表現はリアリティを増します。現実にあるようなそうしたロボットたちの一部分（あるいは全部）を、劇中において設定されたとおりの大きさに引き伸ばして展示します。アニメの登場人物になった気分でご鑑賞ください！

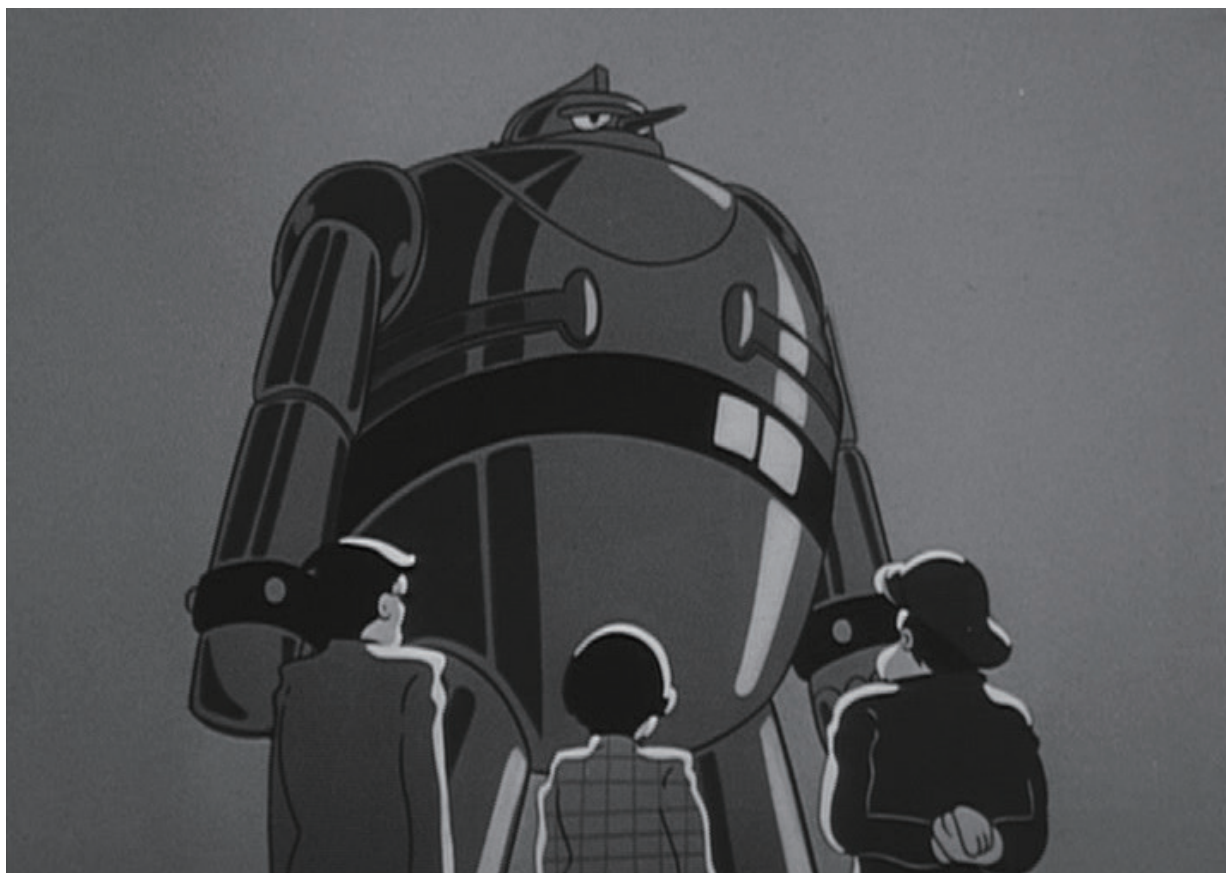
ひとこと

3 「内部メカ」にもえる！

架空のロボットなのに、あたかも本当に存在するかのように、「内部透視図」が描かれてきました。装甲のすきまにのぞくメカニクは、架空のロボットにもっともらしさを与えます。現在ではプラモデルや玩具でも当たり前のように内部メカが再現されることが多くなったロボットの「内部」に注目します。



メガゾーン23 PART II 秘密く・だ・さ・い(1986年) 荒牧伸志 ©AIC ©AICライツ



鉄人28号(1963年モノクロアニメ) ©光プロダクション・エイケン

巨大ロボットとは いったい何なのか？

初めてロボットの存在を知ったのは、テレビの中のアニメだったという人も多いのではないだろうか。私たちが小さな頃から親しんできた「巨大ロボット」の魅力を存分に味わえる展覧会を当館にて開催します。

「巨大ロボット」この言葉の響きは、1970年代前後に幼少期を過ごした人（特に男性）の心を動かすはずです。きつと、一度はブラウン管（死語かも）の中のロボットに憧れ夢中になった記憶があるのではないだろうか。

日本のアニメーション史をさかのぼれば戦前にまで行きつきますが、テレビ放映されたアニメーションの歴史は今年でちょうど60年。1963年、手塚治虫原作の『鉄腕アトム』が本邦初のテレビアニメとして制作放映されましたが、同年には横山光輝原作の『鉄人28号』もテレビアニメ化されました。つまり、日本のテレビアニメ史は、ロボットとともに始まったのです。

架空の巨大ロボットが登場するアニメーション（ロボットアニメ）は、1972年にテレビ放映された『マシンガンZ』が人気を博して以降、今日に至るまで

途切れることなく制作されており、いまや日本の大衆文化の一角を占めているといっても過言ではないでしょう。東京、横浜、福岡に建造された様々な実物大の「ガンダム」たちは、その文化の広がりを感じます。

本展では、『鉄人28号』から近年のロボットアニメにおけるロボットのデザインと映像表現の歴史を、それらの「リアリティ」形成において重要な役割を果たした設定上の「メカニズム」と「大きさ」を軸に検証していきます。「架空」のロボットの「大きさ」を「体感」できる様々な試みを行い、ロボットデザインの歴史とその魅力を多角的に紹介し、その上で、「巨大ロボットとは何か」を観客の皆さんとともに考えていきます。

—— 本展監修 山口洋三
(福岡アジア美術館学芸課長)

知られざる 朝鮮王朝絵画の 魅力に迫る

展覧会情報

朝鮮王朝の絵画
― 山水・人物・花鳥 ―

〈会期〉9月13日(水)～10月22日(日)
〈会場〉1階 古美術企画展示室

関連企画
秋の名品展

〈会期〉8月22日(火)～10月29日(日)
〈会場〉1階 松永記念館室

日本とお隣の国、韓国。言葉や食べ物、風習に至るまで、地理的には近くても互いに独自の文化を築いています。この秋、朝鮮王朝の豊かな文化が生み出した絵画を紹介する展覧会を開催します。



図1《山水図》朝鮮時代・15世紀



図2《山水行旅図》朝鮮時代・16世紀



図3 祥啓《真山水図》室町時代・16世紀

朝鮮王朝は1392年に創建され500年以上も続いた長命な王朝です。韓国の歴史ドラマの舞台として取り上げられることも多いので、なじみ深く感じていらつしやる方も多いことでしょう。

この展覧会では、約45点の作品を山水画、人物画、花鳥画のジャンルごとに概観します。朝鮮王朝の絵画を時代を追ってみていくことで、中国絵画の影響が濃厚な初期の画風から次第に独自の画風が生み出され、展開していく様子がわかります。

本展では、当館がこれまで収集してきた朝鮮王朝絵画に加えて、近年新たに見出された作品も数多くご紹介します。生き物のようにうねる峰を持つ巨大な山岳を画面いっぱいに描いた《山水図》(図1、以下本作と呼びます)もその一例。

山岳の右側には滝壺もみえていて、上空から真下を見下ろす視点で描かれているようです。一方、山岳の左側に目をうつすと、なだらかな景色が奥へ奥へと続いており、低い地点から地面をなめるようにみているような感覚を覚えます。このように左右で異なる視点を組みあわせて描くことで、鑑賞者は中央の山岳の高さと厚みを感じ取ることができるのです。

本作のように画面の中央に山岳をどんと配するスケールの大きな構図は、中国・北宋時代(960～1127)の山水画によくみられる特徴です。朝鮮王朝では、王室をはじめとする上流階級の人びとの間で中国絵画がコレクションされていたことが知られています。北宋時代の山水画を忠実に継承した本作は、こうした王室周辺のコレクションを手本として制作され

たと考えてよいでしょう。朝鮮王朝において北宋絵画は長く規範性をもったようので、本作よりも後の時代の作例である《山水行旅図》(図2)(福岡市美術館蔵)にも同様の構図が採用されています。

ところで、日本の室町時代における山水画も中国絵画を手本に制作されたことがよく知られており、当館が所蔵する祥啓筆《真山水図》(図3)などはその典型です。しかし、本作との違いは明らかで、祥啓の作品はモチーフを画面の右隅に集中させ、その対角線上に広い余白をとるのが特徴です。その結果、本作が自然の崇高さを感じさせるのに対し、祥啓作品は親しみやすさや叙情性を感じさせます。

朝鮮王朝絵画と室町絵画、どちらも中国絵画を手本としながらその印象は大きく異なっています。その理由は朝鮮王朝では長く北宋絵画が強い影響力を持ったのに対して、室町時代には南宋時代(1127～1279)の絵画が重視されたためです。両国が異なる時代の中国絵画を参照したことについては、それぞれの国民性や風土、中国との外交関係など様々な要因が考えられ、ひとことで説明しきることは到底できません。

ただひとつ確かなのは、両国とも中国を中心とした東アジアに位置し、中国文化の多大な影響下に置かれながらも、それぞれ独自の中国絵画を消化し個性ある美術を生み出し展開させていったということです。

この紹介文では、山水画のことだけしか紹介することができませんでしたが、展覧会では人物画、花鳥画も多く展示いたします。これらの作品をとおして、朝鮮王朝独自の美意識に触れ、隣国に対する理解を深める一助としていただけましたら幸いです。

また、本展にあわせて松永記念館室で開催する「秋の名品展」では、先ほどご紹介した祥啓《真山水図》をはじめとする室町絵画や、その源泉となった中国絵画を展示いたします。東アジアの国々で描かれた絵画を見比べることで、それぞれの独自性や共通性をみつけてみてはいかがでしょうか。展覧会期中は記念講演会をはじめ様々なイベントを実施いたします。決まり次第ホームページで公開していきますのでご期待ください！

学芸員(古美術係)宮田太樹



うん、とっても
おもしろいねー！

どんな夢を見られるかな？

みなさんは「波」を描く時にどんな模様をイメージしますか？この作品をつくった中国の12～13世紀の人はこんな波の形を描きました。この作品は陶枕と呼ばれるもので、実は「枕」。中国ではさまざまな色、形、模様の陶枕が作られてきました。波の文様の枕で眠るといったどんな夢が見られるのでしょうか。



はくゆうかつかかなみんまくら
《白釉劃花波文枕》

磁州窯系／中国 12-13 世紀／森田コレクション

いろいろな
「海」があるね！

海を髪に飾ろう

この透き通ったきれいな作品は、「花弁（はなこうがい）」という髪飾りです。タイマイというウミガメの甲羅を素材とする「べっこう」で作られていて、波頭で遊ぶ千鳥の姿や、船のいかりや蛤などが細かく立体的に彫られています。いまではタイマイは絶滅危惧種に指定されており、べっこうはとても貴重な素材となりました。



《波千鳥に碇電甲花弁》
江戸時代 18-19 世紀／黒田資料

おめでたい動物が描かれています

一見荒波に揉まれる亀という実際の風景を描いた絵に見えますが、この亀は「瑞亀」や「靈亀」と呼ばれ、古代中国では麒麟や龍、鳳凰とともに、縁起がよいとされる想像上の霊獣です。まるで毛を生やしているように見えるほど甲羅に長い藻をつけ、口からはなにか霊幻あらたかな気を吐いているよう。作品の幅が約168cmと大きく、力強い線で描かれた波と相まって、迫力のある大海が表現されています。



狩野常信《瑞亀図》
江戸時代 17-18 世紀／黒田資料

まるで海が広がっているみたい

「紹（ろ）」という通気性の高い織物でつくられた夏の着物です。爽やかな水色は海を表し、岩に波が打ち寄せる様子や浜辺に立つ松、舟や橋が表現されているのがわかります。これらのモチーフは夫婦の絆や長寿を祝う能の演目「高砂」に出てくるもので、おめでたい場で着るために作られたものだと考えられています。



ひとえ ごしよどぎもんよう
《単衣 御所解文様（水辺春景）》
江戸時代 19 世紀／黒田資料

夏休みだ！海に行こう！

夏休みこども美術館 2023

「うつく sea! すばら sea!」

●会期：6月27日(火)～9月10日(日)

●会場：1階 古美術企画展示室

ということは
福岡市美術館だ！

え？

こ の夏の「夏休みこども美術館」では、海に関連する美術作品を展示します。作品によって、海を作品に取り入れる方法もさまざま。展示を見ながら、「これはどんなところが海なのかな?」「わたしのイメージする海と近いな、違うな」などいろいろ考えてみてください。

今年の夏休みこども美術館のテーマは「海」です。当館所蔵の古美術作品の中から「うつく sea (しー)! すばら sea (しー)!」作品たちで展示を構成しました。この展示をきっかけに、昔の人びとがどのように海を表し、海洋生物など海の資源と向き合ってきたのか考えてもらえると嬉しいです。

展示は 4 つの章に分かれています。一つ目の章の「うみの素材をつかう」では、貝殻など海にあるものを素材に用いた作品を紹介します。現在では絶滅の危機にあるタイマイという種類のウミガメを素材として使用した作品もあります。

二つ目の「まさにうみ」の章では、海の生き物や海の景色を表現した作品を展示します。海景を表した作品は、現在の私たちの暮らしを取りまく海との違い

がわかりやすく、昔のくらしを見て取ることができます。

三つ目の「うみが由来」の章では、波を表現した文様など、海が発想の源となっている作品を紹介します。この章では、昔の人々がお茶碗や枕など、身近なものに海のイメージを取り入れていたことがうかがえます。

最後の章の「うみとかみさま」では、海や水の神様に関する作品を展示します。昔の人々は豊漁や海上守護などを願って、海や水の神様を信仰していました。さまざまな「うみとかみさま」から、昔の人々がどのように海を捉えていたのか想像してもらえればと思います。

夏といえば海! 今年の夏休みは海水浴だけでなく、美術館でも海を満喫しませんか? ぜひご来場をお待ちしています。(教育普及専門員 八並美咲)

7月	8月	9月
1 土	1 火	1 金
2 日	2 水	2 土
3 月	3 木	3 日
4 火	4 金	4 月
5 水	5 土	5 火
6 木	6 日	6 水
7 金	7 月	7 木
8 土	8 火	8 金
9 日	9 水	9 土
10 月	10 木	10 日
11 火	11 金	11 月
12 水	12 土	12 火
13 木	13 日	13 水
14 金	14 月	14 木
15 土	15 火	15 金
16 日	16 水	16 土
17 月	17 木	17 日
18 火	18 金	18 月
19 水	19 土	19 火
20 木	20 日	20 水
21 金	21 月	21 木
22 土	22 火	22 金
23 日	23 水	23 土
24 月	24 木	24 日
25 火	25 金	25 月
26 水	26 土	26 火
27 木	27 日	27 水
28 金	28 月	28 木
29 土	29 火	29 金
30 日	30 水	30 土
31 月	31 木	

特別展(2階)	7月1日(土)～8月27日(日) ・WHO AM I-SHINGO KATORI ART JAPAN TOUR- (お問合せ:本展事務局 TEL 092-718-4649)	9月9日(土)～11月12日(日) ・日本の巨大ロボット群像 ー巨大ロボットアニメ、そのデザインと映像表現ー
通期	・コレクションハイライト (近現代美術室A)	
6月22日(木)～8月27日(日)	・山好きな画家たち (近現代美術室A) -----!----- 画家たちが様々な表現で描いた山の風景や営みを紹介し、その魅力に迫ります。	8月29日(火)～11月5日(日) ・奈良原一高「王国」(近現代美術室A)
6月22日(木)～9月10日(日)	・時代で見る美術 1940年代 (近現代美術室B)	9月16日(土)～10月22日(日) ・FaN Week特別展示 コレクターズ展(近現代美術室B)
通期	・コレクションハイライト (近現代美術室C)	
6月27日(火)～9月10日(日)	・夏休み子ども美術館2023 うつくsea! すばらsea! (古美術企画展示室)	9月13日(水)～10月22日(日) ・企画展 朝鮮王朝の絵画 ー山水・人物・花鳥ー (古美術企画展示室)
6月13日(火)～8月20日(日)	・懐石のうつわ一向付・鉢・酒器 (松永記念館室) -----!----- 懐石 (茶席で供される料理のこと) に用いられた古陶磁を紹介します。	8月22日(火)～10月29日(日) ・秋の名品展(松永記念館室)
通期	・東光院のみほとけ(東光院仏教美術室)	

LECTURE

つきなみ講座

JULY-SEPTEMBER 2023

毎月1回、当館学芸員が、自分の仕事、展示、研究、関心ごとについて語ります。

※聴講無料、申し込み不要 ※先着順(30分前開場) ※定員等は変更になることがあります。詳細は美術館ホームページをご確認ください。

8月 新人学芸員が担当!

「うつくsea!すばらsea!」展の企画から実現まで

今年の夏休み子ども美術館は「うつくsea!すばらsea!」と題して、海をテーマにしています。展示作品や関連イベント等を決め、それらを実施するまでに展覧会を担当した新人学芸員がどんなことをしていたのかお話しします。

日時：8月26日(土)15:00-16:00
会場：レクチャールーム(定員54人)
講師：八並美咲(教育普及専門員)

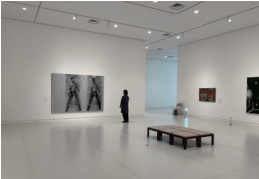


《亀形合子》中国16-17世紀 本多コレクション

7月 ウォーホルとお金をめぐる幾つかのお話し

20世紀を代表するアメリカ人美術家のアンディ・ウォーホルは、とりわけ「お金」との縁が深い人物でした。今回の講座では、「ウォーホルとお金」という視点でもって幾つかのエピソードをご紹介します。

日時：7月22日(土) 15:00-16:00
会場：レクチャールーム(定員54人)
講師：山田隆行(学芸員・近現代美術係)



福岡市美術館 近現代美術室

9月 やきものの色の話

陶磁器の色は、土や釉薬などの材料と焼き方、技法によってさまざまなバリエーションが生まれます。当館所蔵の古陶磁と現代作家の作品を比較しながらやきものの色についてお話しします。

日時：9月23日(土・祝)15:00-16:00
会場：レクチャールーム(定員54人)
講師：高田瑠美(教育普及係長)



重要文化財 野々村仁清 《色絵吉野山園茶壺》 江戸時代 17世紀 松永コレクション

ギャラリー A-F 2階

7月4日(火)～7月9日(日)
・第51回 日本の書展 (ギャラリーA、B、C、D、E、F)

7月11日(火)～7月17日(月・祝)
・令和5年度第36回 福岡県高文連福岡地区美術・工芸展 (ギャラリーA、B、C、D、E、F)

7月19日(水)～7月23日(日)
・第36回工芸美術知新会展 (ギャラリーA)
・阿部直昭 絵画教室 彩友会 (ギャラリーB、C、D)
・七隈カルチャーセンター近藤えみ教室展 (ギャラリーE)
・第63回西日本フォトコンテスト入賞作品展 (ギャラリーF)

7月25日(火)～7月30日(日)
・第118回太平洋展 第56回西日本展 (ギャラリーA、B、C、D、E、F)

8月1日(火)～8月6日(日)
・第37回日洋展 (ギャラリーA、B、C、D、E、F)

8月8日(火)～8月13日(日)
・第45回福岡県独立書展 書法の黄金期一唐時代の書を追って 併催古碑拓本展 (ギャラリーA,B,C,D,E)

8月15日(火)～8月20日(日)
・西日本新聞書道之友展2023 (ギャラリーA、B、C、D、E、F)

8月22日(火)～8月27日(日)
・紫彩展(ギャラリーA)
・よかも(ギャラリーB、C、D)
・個展 sanagies(ギャラリーE)
・グループテオ展(ギャラリーF)

8月29日(火)～9月3日(日)
・第76回示現会展(ギャラリーA、B、C、D、E、F)

9月5日(火)～9月10日(日)
・第23回さくら会水彩画展(ギャラリーA)
・soyFIELD 絵画教室 作品展(ギャラリーB、C)
・子じか会健脳リハビリ壁画アートワーク作品展(ギャラリーD)
・Tsukiの折り展(ギャラリーE)
・第124回 九州写真展覧会(ギャラリーF)

9月12日(火)～9月18日(月・祝)
・KINJIが爆発(ギャラリーA)
・錦雲70書展-3560日の歩み、そして今から- (ギャラリーB、C)
・立花会 絵画展(ギャラリーD)
・「世界初 麦の写真展」(ギャラリーE)
・大西秀治 写真展～くじゅうに魅せられて～ (ギャラリーF)

9月20日(水)～9月24日(日)
・グラスアートアソシエーション作品展(ギャラリーA)
・布の花 花工房グループ展(ギャラリーB)
・グループ、ウォーターカラー(ギャラリーD)
・墨心会(ギャラリーE)
・第9回 野口正幸 絵画教室生徒作品展(ギャラリーF)

9月26日(火)～10月1日(日)
・Un récit ×村田優希「運命の種」(ギャラリーA)
・レインボー展(ギャラリーB)
・木曜会作品展(ギャラリーC)
・第14回グループめだか色鉛筆画作品展(ギャラリーD)
・APA九州支部2023作品&セミナー展(ギャラリーE)



グランドメゾン大濠公園アパートメント



グランドメゾン大濠公園タワーレジデンス



グランドメゾン大濠公園タワーレジデンス



グランドメゾン大濠公園ガーデンタワーレジデンス

時と共に美しく、積水ハウスの分譲マンショングランドメゾン



「グランドメゾン倶楽部」会員募集中



積水ハウス株式会社

お問い合わせ 0120-143-377

グランドメゾン

検索



福岡市美術館ミュージアムイベント協賛企業・団体



ふくおか応援寄付

福岡市美術館が魅力的であり続けるためには、今後とも機会あるごとに美術品を収集することが不可欠であり、そのための資金として皆さまから「ふくおか応援寄付」（ふるさと納税による寄付）を募集しています。

わたすclub

会員になると、展覧会や映画などの料金がオトクに!もっと身近にアートのワクワクを感じてみませんか。福岡市文化芸術振興財団のホームページ (<http://www.ffac.or.jp/wa/>) またはミュージアムショップ店頭で入会受付中。

RESTAURANT&CAFE

レストラン・カフェ

夏季限定ランチ
7/1(日)~8/27(日)
夏にぴったりの野菜や
スパイスを使用したランチです。
3,520円(税込)

Minty
~ノンアルコールモヒート~
825円(税込)

Lemone
~レモンスカッシュ~
825円(税込)



福岡市美術館

FUKUOKA ART MUSEUM

福岡市美術館
ウェブサイト

www.fukuoka-art-museum.jp



esplanade JULY 2023 | NO.212

福岡市美術館 季刊誌エスプラナード212号 発行日:2023年7月1日

【制作】福岡アートミュージアムパートナーズ株式会社(西日本新聞社)【編集】浅野佳子(nico edit)【デザイン】dictom design【印刷】株式会社西日本新聞プロダクツ【発行】福岡市美術館(〒810-0051 福岡市中央区大濠公園 1-6 TEL:092-714-6051 FAX:092-714-6071 <https://www.fukuoka-art-museum.jp>)

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6 TEL:092-714-6051(代表) FAX:092-714-6071
【開館時間】9:30~17:30(7月~10月の金・土曜日は9:30~20:00) ※入館は閉館の30分前まで。
【休館日】月曜日、年末年始(12月28日~1月4日) ※月曜日が祝日・振替休日の場合はその後の最初の平日